

かね岩海苔

新工場20㍍高台に変更

南国市 震災でリスク分散

高知みなみ流通団地（高知市池）で操業している食用のり製造の「かね岩海苔」（岩崎定之社長）は25日までに、東日本大震災を受けて事業継続計画（BCP）を見直し、2013年秋に移働予定の第2工場建設地を、当初の本社隣地から約20㍍高い区画（同団地内）に変更することを決めた。災害時などのリスクを分散し、生産力向上を図る。

（井上智仁）

同社は1985年に円から、約14億円（11の約5100平方㍍）の創業。もともと、同市北新田町に本社と工場、同市潮新町に商品センターがあったが、2004年2月に同団地に移転統合した。

その際、衛生管理と品質向上を徹底し、製造ラインを1本から3本に増設。四国中心だった販路を関東、関西に広げ、売上高を05年3月期の約4億7千万

だ。管理が難しく、地元雇用も守りたい。拡充された県の企業立地への補助も活用し、揺るぎない強い構造で、高品質ののりを製造する工場にしたい」と意欲を

第2工場は、09年に計画。当初は本社兼第1工場の隣地に予定していたが、東日本大震災を受けて見直すことになった。

13年春に着工し、鉄骨2階建てに5本の製造ラインを整備できるスペースを構える。建設費や機械設備などの初期投資額は約5億5千万円を見込む。

岩崎社長は「今回の震災でリスク分散の必要性を痛感した。県外



かね岩海苔の第2工場建設予定地
（南国市十市の高知みなみ流通団地）